2023年度 実務経験のある教員による授業科目

担当者名	授業科目名	単位数	配置学科	授業概要
榎本 恒	榎本 専門ゼミナールⅠ	1	経営総合学科	税理士として23年間事務所経営を営んでいる担当教員が、FPの実践を通じた段階教育の中間段階の実践を進める。グループごとに各ライブイベントを課題として割当て、グループ協議により具体的内容の検討を行い、期末においてグループ発表を行う。
榎本 恒	榎本 専門ゼミナールⅡ	1	経営総合学科	税理士として23年間事務所経営を営んでいる担当教員が、FPの実践を通じた段階教育の最終段階の実践を進める。各自の卒業後の将来キャッシュフロー計算書を完成する作業を通じて、自分の将来をしっかりと考えることを目的とする。
榎本 恒	法人税演習	1	経営総合学科	税理士として24年間事務所経営を営んでいる担当教員が、検定における得点力を養成することを目的として講義時間内において講義と演習を反復し、具体的な注意事項を解説する。
神山 直規	消費税演習	1	経営総合学科	税理士として30年間以上、及び国家試験受験予備校の専任講師として10年以上の経験を持つ担当教員が、消費税の申告業務上、得られた知識を反映した講義を行うとともに、検定試験における得点力を向上させることを目的として講義時間内に演習を実施する。これらの講義と演習を反復させることにより、単に知識だけに留まらない実務に通じる消費税の知識を付与することを目的とする。
衣川 功一	経営とICTイノベーション概論	2	経営総合学科	国内ICT企業に32年間勤務し、鉄鋼、自動車、建設、電機、食品飲料、卸などの民需業界企業向けの情報処理システム開発やSI業務に従事。更に、情報学、技術経営、経営情報の専門性を活かしてインターネットやクラウドコンピューティングに関連する技術戦略推進業務を通して先端技術の活用研究やIT人材の育成に取り組んだ。 教員の経験を活かして、本授業では、ICTの基本的な概念、手法、技術を体系的に解説し企業で活用するコンピュータの仕組み、情報処理の基礎技術が理解できる。ICTの歴史的な観点からコンピュータ技術、ネットワーク技術を探り、近年のICT活用による課題解決の方策・アイデア発想力を醸成し、DXへの取り組み、Society5.0社会の到来、企業経営や社会システムの変革などに関する基礎を理解する。
中溝 一仁	起業論	2	経営総合学科	これまでに有限会社を2つ設立し代表取締役に就任、一般社団法人を設立し代表理事に就任。長年企業や法人の代表を務め、マネジメントを行っている。法人を3つ立ち上げた経験を元に「起業論」ではビジネスをはじめるときの考え方やアプローチ、リスクマネジメントについて体系的に学ばせる。またグループワークで模擬的に会社を設立させ、授業の最後でビジネスコンテストを開催してプレゼンテーションを実施する。実践的な学びとアクティブラーニングによって将来自身での起業を検討する際に、リスクを低減させスムーズに事業を行えるスキルを身につけることができる。
経営総合学科 合計8単位				
綿貫 文野	子どもの理解と援助	1	こども教育学科	保育園で約20年間勤務し0歳児～5歳児の保育経験がある教員が担当する。その中でも0歳児から3歳児の経験が多く、0歳児1歳児の担任年数が長い。人数の多い保育の中でも1人ひとりを丁寧にみる育児担当保育という保育を取り入れて長年していた経験から1人ひとりの子どもを理解するための基本的な考え方や生活と遊び、保育環境と個と集団の育ちなど多様な視点から子どもを理解する方法について指導する。観察や記録を通した子ども理解ができることを目的とする。また、主任、園長経験、子育て支援事業などの運営経験を活かし、保護者の心情と基本的な対応方法の理解を深める。
鈴木 律子	子どもと言葉Ⅰ	1	こども教育学科	幼稚園教諭の実務経験を活かし授業を展開する。子どもの発達に則して「話す」、「聞く」、「伝える」といった言葉の基礎について学ぶと共にコミュニケーションの円滑な進め方の実践として絵本や紙芝居等の児童文化財を活用し、演技や技術によって表現される無形のもの、物体として表現される有形のものとの両側面から学ぶ。
小木曾 宏	子ども家庭福祉	2	こども教育学科	児童自立支援施設、児童相談所、児童養護施設長、合わせて26年間、社会的養護実践に従事してきた。国や千葉県委員及びスーパーバイザーの経験を活かし、事例研究やロールプレイングなど実践的な演習を取り入れている。「社会的養護」科目では、子ども達の暮らし「社会的養護の現状及び課題」を習得した。本授業では、今日の子どもたちをめぐる諸問題と社会的な背景を理解し、子どもと家族をサポートするための福祉制度や法律などの基礎を学ぶ。また、子どもの権利とは何かについて学び、子ども虐待対応の基礎について学ぶ。
小木曾 宏	保育実習指導Ⅰ	2	こども教育学科	社会的養護施設の現場経験と大学の「実習センター」相談員(12年)の経験を活かし、施設サイドと養成校サイド、両面の視点を持って、実習施設と連携を図りながら実習教育を行っている。本科目では、実習の事前学習、本実習を経て実際の保育実習後の振り返りを行い、実習により学んだ内容の整理を行う。さらに実習指導者から受けた助言や自己覚知できた内容をまとめて発表する。それと同時に利用者として、感じられたこと、考えたことを文章化して、クラス全体でディスカッションする。そして、クラス内で実習報告会を実施する。最後に、自己の課題を明確にして、保育実習Ⅱ及びⅢに向けた新たな計画に結びつける。
小木曾 宏	保育実習ⅠB(施設)	2	こども教育学科	千葉県の児童養護施設長、児童相談所職員等、26年間の経験から千葉県内の児童福祉施設との繋がりが強固にある。それにより深い信頼関係を築いている。したがって、実習内容も相互に新たな実践を交えながら行っている。本科目では、実際の児童福祉施設における保育・養護の実際の場面で、児童の日常生活・介助・援助をはじめ、生活指導・遊び・学習指導、保健指導等、日常生活の維持と心身の発達に直接かかわることを体験的に学ぶ。
こども教育学科 合計8単位				